

日本の水とアフリカの水

私が生活している中で「水」という存在が大切だと感じることはありません。日本で暮らす私たちは、水にめぐまれているので「水」について考えることがないと思います。

お風呂、トイレ、洗濯、洗顔などあたりまえの日常生活の中で水を使う場がほとんどです。水があつてあたりまえの環境の中暮らしている私たちは、水が重要な資源だということを感じることはないと思います。

地球上では、この大切な重要な資源の水を得るのにとても苦労している国があります。途上国を例としてあげると、アフリカのサハラ以南の諸国では、水を得るのにとても苦労している国々です。女性や子供の毎日の仕事は、水汲みです。水道が整備されていない途上国の地域に住む人々は、生活で使う水を

生駒市立上中学校 三年

多久 万里加

得るために水を汲んでこななければなりません。これらの地域では、水汲みが伝統的に女性の仕事とされてきました。女性が安全な水を求めて十キロメートル以上も歩くことがめづらしくありません。

生活に必要な量の水を運ぶことはとてもつらいものです。私がい物へ行った時2リットルのペットボトルを数本持っただけで、とても重く感じました。毎日重い水を何キロも歩いて運ぶことを想像してみると、とてもつらい重労働だということがわかりました。

途上国の多くの場合は、このような体力が必要な重労働を女性や子供の仕事になることがほとんどです。「水汲み」という仕事がある以上、子供は学校へ行くことができません。また女性の場合、働きに行くことすらできなくなります。

途上国の人々の生活は「水汲み」という仕事
が一日の生活を多く占めます。

日本を含む先進国を中心とした国では、水道がきちんと整備されています。豊かな国に暮らす人たちの何倍もの労力とお金を使わないと、水不足に悩む地域の人々はきれいで安全な水を手に入れることができません。

二〇〇八年に「第四回アフリカ開発会議」で「水の防衛隊」という活動が発表されました。

この活動は、安全できれいな水を手に入れることができない水不足に悩むアフリカの国々に日本の技術者を派遣する計画です。安全な水を届けることができるように、給水施設の整備や管理など水の専門家を派遣する試みです。

特にアフリカ東部にあるエチオピアでは、人口約八〇〇万人のうち安全な水を手に入れることができるのはたったの二割程度の限定された人々です。エチオピアは世界でも、最も給水率の低い国の一つとされています。何時間もかけて運んだ水の中には、病原菌が潜んでおり、病気になる人が続出している状

況です。

こうした水問題を解決するために誕生した「水の防衛隊」は有害物質が含まれている水を調査し、有害物質を取り除く方法を検討しています。また、給水施設を整備するだけではなく、現地の技術者の育成にも取り組み、水不足に悩むアフリカの人々を救うために、日々活動を続けています。

日本は、蛇口をひねればきれいな水が出るというとてもめぐまれた環境の中生活しています。これらの人々の生活を知り、「水」という重要資源をもっと大切に使わなければいけないと感じました。

「水の防衛隊」のような活動はできませんが少しでも水不足に悩まされている人々の役に立てるような活動を見つけていきたいと思いました。あたりまえのようにある安全な水を使おう時、これらの人々のことも頭において、生活していこうと思いました。